

# フェニックスの害虫被害について

近年、日南海岸を中心に広い範囲で主に東南アジアなどに分布する「ヤシオオオサゾウムシ」の食害による県木“フェニックス”の立ち枯れ被害が拡大しています。市内でも既に被害が出ており、防除など適切な維持管理が重要です。

「ヤシオオオサゾウムシ」の生態・対処法については以下のとおりです。

## 『ヤシオオオサゾウムシ』について

### ☆☆ ヤシオオオサゾウムシとはどんな虫？ ☆☆

一般的に成虫は体長が2～3 cmで、光沢のある赤～暗褐色で不規則な黒紋がありますが、全体が赤褐色または黒色の固体もあります。幼虫は乳白色の円筒形で腹部中央部の背面が盛り上がり、5～6 cmまで成長します。蛹（さなぎ）は明褐色で3～4 cmの大きさで、ヤシの繊維で作った俵状の繭（まゆ）で包まれています。

フェニックスの幹最上部の比較的新しい葉柄部を中心に食害します。食害が進むと最終的には樹木は枯死します。フェニックス以外にもカナリーヤシ、ワシントンヤシへの食害が報告されています。



幼虫



蛹（さなぎ）



繭（まゆ）



成虫

## ☆☆ どうやって被害木を確認するの？ ☆☆

食害は幹最上部の比較的新しい葉の葉柄部分に集中しています。幼虫の食害が進むと幹最上部から伸びる新しい葉が無くなります。横にある下に向いた葉は残りますが幹の食害が進むと最終的には枯れてしまいます。判断のポイントとして以下のものがあります。

### ☆被害確認のポイント☆

①比較的新しい葉が欠落している。(被害初期)

②上方向の葉が欠落している。(被害後期)

※落ちた葉に虫が食べた食害痕(直径2cm程度の穴)が確認できます。

③上方向の葉が欠落し、残りの葉一部又は全体的が褐色に変色している。

(被害終期)



食害を受けて落ちた葉



食害痕(拡大写真)



ヤシオオオサゾウムシによる食害の進捗状況  
※新しい葉を始めに、上から葉が欠落し、枯死が進行する。

## ☆☆ どうやって対処すればいいの？ ☆☆

### ①まだ被害が確認されていない場合

薬剤散布による予防が効果的です。成虫の活動期間（3月～12月）に定期的に樹頂部に散布します。

（参考：下記で紹介している薬剤は2ヶ月程度効果が残るので2カ月おきに散布します。）

※薬剤散布は高所での作業となり危険を伴いますので、十分注意が必要です。（一般の方は造園業者等へ依頼することをお勧めします。）

### ②既に被害を受けた場合

重度の食害を受けた場合は、被害のまん延を防止するため、すみやかな伐倒・焼却処分が必要です。（被害の程度により対処方法が変わりますので、詳しくは造園業者等にご相談下さい。）

使用する薬剤は以下の通りです。

・「スミパインMC」50倍希釈液

（水5リットルあたり薬剤100ccの割合で薄める。）

薬剤は、農薬取扱店（園芸専門店等）で購入できます。

## ◎ 重要事項 ◎

フェニックスは県木として指定されています。食害が確認された場合は、宮崎県自然環境課まで被害情報をお知らせ下さい。

問い合わせ先：宮崎県自然環境課 TEL：0985-26-7163